

## 研 究

## 保護者がとらえた予防接種後の幼児の「がんばった」を示す行動

浅利 剛史, 田畑 久江, 今野 美紀

## 〔論文要旨〕

本研究の目的は、保護者が認識した予防接種後に幼児が示す「がんばった」行動を明らかにすることである。このことを明らかにすることで、予防接種後の幼児を称賛するタイミングとなる幼児の行動を提示できる。過去1年以内に予防接種を受けた3～7歳の幼児をもつ保護者11人を対象に半構造化面接によりデータ収集を行い、質的帰納的分析により、予防接種後から帰宅後に幼児が示す「がんばった」行動を明らかにした。

分析の結果、予防接種後の幼児の「がんばった」を示す行動は68コード、20サブカテゴリー、3カテゴリーが見出された。具体的には【充足感の表出】、【予防接種からの切り替え】、【予防接種の振り返り】であった。【予防接種の振り返り】は本研究で新たに見出されたカテゴリーであった。先行研究では予防接種の前・中・直後における幼児の行動に関する報告が多く、予防接種後の待合室や帰宅後における幼児の行動に焦点化された報告がほとんどないためであると考えられた。医療者が幼児の予防接種後の「がんばった」行動を保護者へ情報提供することで、幼児の【予防接種の振り返り】を促進することができ、保護者による予防接種後のプレパレーションが効果的に行われる可能性が示唆された。

Key words : がんばった, 予防接種, 幼児, 保護者, 行動

## I. 目 的

本研究の目的は、保護者が認識した予防接種後に幼児が示す「がんばった」行動を明らかにすることである。多くの幼児にとって予防接種は穿刺により苦痛を伴う処置である。医療を受ける時の子どもは、言語による痛みの表出、予防接種を受けることへの拒否、啼泣、緊張により腕や体を動かさずにこわばらせる、といった苦痛を示す言動を示すことが報告されている<sup>1-3)</sup>。そのため、医療職者や保護者は、予防接種を受ける幼児の苦痛を軽減するために、子どもをがんばらせるための声掛け、予防接種の方法や場所や痛みに関する情報提供、保育士らと協働して紙芝居を用いたプレパレーションを実践している<sup>4-6)</sup>。

プレパレーションとは「治療や検査を受ける子ども

に対し、認知発達に応じた方法で病気、入院、手術、検査、そのほかの処置について説明を行い、子どもや親の対処能力（頑張ろうとする意欲）を引き出すような環境および機会を与えること」である。また、プレパレーションは5段階に分けられており、ステージ1は「病院に来る前（親からの情報）」、ステージ2は「入院・処置のオリエンテーション、遊びの中での観察・技術と方法の選択」、ステージ3は「プレパレーション・真実に基づく説明」、ステージ4は「処置中の気を紛らわせるような遊びの介入（ディストラクション）」、そしてステージ5は「処置の後・退院後の遊び」といわれている<sup>7)</sup>。先行研究では、5段階のうちステージ3である研究がほとんどである。

5段階のうち、ステージ5の「処置の後・退院後の遊び」はplay therapy 的効果を有するものとされ、

Behaviors Demonstrating “Ganbatta” in Young Children Undergone Vaccine Injection as Perceived by Parents

Tsuyoshi ASARI, Hisae TABATA, Miki KONNO  
札幌医科大学保健医療学部看護学科（看護師）

[3291]

受付 20.11.16

採用 21. 6.29

医療者は検査や処置終了後に子どもが頑張ったことを評価し、その気持ちを評価し、さらに支援する重要な部分といわれている<sup>7)</sup>。しかしながら、プレパレーションのステージ5に着目した先行研究はほとんどない。その理由として、ステージ5を実施するタイミングは、主に処置後の待合室あるいは自宅での実施になるため、医療者による観察あるいは介入機会が得られづらいことが先行研究の少ない理由として考えられる。それゆえ、処置後の子どもの行動を観察できるのは保護者である。先行研究では看護師がとらえる検査・処置を受ける幼児後期のがんばる姿<sup>8)</sup>や看護師・保護者がとらえる採血・予防接種時の3～7歳児の「がんばった」行動を明らかにしたもの<sup>9)</sup>はあるが、保護者のとらえに焦点を当てた予防接種後の幼児の行動に着目したものはない。

以上より、保護者が認識した予防接種後に幼児が示す「がんばった」行動を明らかにすることは、保護者に、予防接種後に幼児を称賛する際の具体的な幼児の行動を提示できる。

## II. 対象と方法

### 1. 研究対象者

過去1年以内に予防接種を受け、そのときの年齢が3～7歳である幼児をもつ20歳以上の保護者11人であった。

### 2. 用語の定義

幼 児：3～7歳で穿刺部周囲に知覚異常がなく、コミュニケーションや知的発達が年齢相応の子ども。

### 3. 研究方法

#### i. 研究デザイン

インタビューによる質的記述的研究。

#### ii. データ収集方法

データ収集期間は平成27年12月～平成28年8月であった。対象の抽出は便宜的抽出方法を用い、筆者のネットワークを用い1地域のアクセス可能な保護者に電話、あるいはメールにて連絡し、口頭で概略を説明した。その後は保護者と面接の時間を調整し、インタビュー前に文書と口頭にて本研究の目的と意義、方法、倫理的配慮を説明したうえで保護者に同意を得た。同意を得たのちにインタビューを行った。

インタビューは半構成的面接法でインタビューガイ

ドを用いながら30分程度行った。インタビューガイドは、保護者の基本属性を問う質問、「がんばった」行動に関して過去の経験をもとに話してもらえるような質問構成にした。保護者の話の流れに合わせて優先順位を考えながらインタビューを進めた。また、保護者の話から、より具体的に幼児の言動を話してもらえるよう適宜、質問を追加した。インタビュー中はICレコーダーにて録音し、必要時はメモをとり、インタビュー終了後は可及的速やかに逐語録を作成した。

### iii. データ分析方法

作成した逐語録を読み込み「がんばった」を示す表出行動が1つの行動で構成されるように切片化を行った。その後、切片化した「がんばった」に関するインタビューデータをコード化した。似たコードについては集約し、抽象度を上げてカテゴリー化した。なお、分析過程において共同研究者と信憑性を担保するために分析結果を繰り返し精査した。

### iv. 倫理的配慮

本研究を開始するにあたり、札幌医科大学の倫理委員会にて審議された後、学長の承認を得た（承認番号27-2-43）。保護者には研究の目的・方法・研究参加の任意性、同意の撤回、個人情報の保護、研究結果の公表について文書と口頭で説明し、文書により同意を得た。

## III. 結 果

### 1. 保護者の属性（表1）

保護者の属性は30歳代が9人、40歳代が2人、母親が10人、父親が1人、全員が既婚であり、職業は専業主婦が6人、有職者5人であった。

### 2. 予防接種後の幼児の「がんばった」を示す行動（表2）

予防接種後の幼児の「がんばった」を示す行動は、

| 表1 保護者の属性 (n=11) (人) |      |    |
|----------------------|------|----|
| 年齢                   | 30歳代 | 9  |
|                      | 40歳代 | 2  |
| 続柄                   | 母親   | 10 |
|                      | 父親   | 1  |
| 婚姻状態                 | 既婚   | 11 |
|                      | 未婚   | 0  |
|                      | 離婚   | 0  |
| 職業                   | 専業主婦 | 6  |
|                      | 有職者  | 5  |

表2 保護者がとらえた予防接種後の幼児の「がんばった」を示す行動

| カテゴリー       | サブカテゴリー         | 代表的なコード                      |
|-------------|-----------------|------------------------------|
| 充足感の表出      | 喜び              | 明るい表情                        |
|             |                 | ご褒美をもらい喜ぶ                    |
|             | 誇らしい態度          | 保護者からの称賛に誇らしげな表情             |
|             |                 | 胸を張って歩く                      |
|             | 絆創膏をはがすことの拒否    | 絆創膏をはがしたがらない<br>絆創膏を貼ったままにする |
| 予防接種からの切り替え | 穿刺部位の誇示         | アピールするために穿刺部位を見せる            |
|             | 遊びへの転換          | ご褒美シールで遊ぶ                    |
|             |                 | プレイエリアへ遊びに行く                 |
|             | 通常時に戻る          | いつもの状態に戻る                    |
|             |                 | 静かに本を読む                      |
|             | 泣き止む            | 終わったことに気づき泣き止む               |
|             |                 | 保護者とのスキンシップで泣き止む             |
|             | ご褒美への関心         | ご褒美でほしいものを悩む                 |
|             |                 | 抱っこを要求する                     |
|             | ご褒美の選択          | ご褒美シールを選ぶ                    |
|             |                 | きょうだいと分配できるご褒美を選ぶ            |
|             | 帰宅に向けた準備        | ご褒美シールをはがす                   |
|             |                 | ご褒美の提示で帰り支度を始める              |
|             | 他者への気遣い         | 泣いている他児に「大丈夫だよ」と励ます          |
|             |                 | 泣いている他児のところへ行く               |
|             | 予防接種後の情報探索      | 入浴可能かどうかを確認する                |
|             |                 | 絆創膏の着脱に関する質問をする              |
|             | 穿刺部周囲の状況報告      | 穿刺部周囲が硬結していることを報告する          |
|             | 次回の予防接種に向けた意思表示 | 2回目の予防接種があることを伝えられ「わかった」と答える |
|             |                 | 2回目の予防接種があることを伝えると嫌がる        |
|             |                 | 2回目の予防接種に向けて「その日もがんばる」と言う    |
| 予防接種の振り返り   | 痛みに関する表出        | 「痛かったけど、大丈夫だった」と言う           |
|             |                 | 痛くなかったことを報告する                |
|             | がんばれなかったことの報告   | 「がんばれなかった」と言う                |
|             |                 | 「泣いたからがんばれなかった」と言う           |
|             | がんばったことの報告      | 「がんばった」と言う                   |
|             |                 | がんばったことを同席しなかった保護者に報告する      |
|             | 泣かなかったことの報告     | 泣かなかったことを年下のきょうだいに報告する       |
|             |                 | 泣かなかったことを同席していない保護者に報告する     |
|             | 泣いたことの報告        | 泣いたことを同席しなかった保護者に報告する        |
|             |                 | 予防接種の様子を同席しなかった保護者に報告する      |
|             | 予防接種を受けたことの報告   | 予防接種をしたことを幼稚園教諭に報告する         |

コード数が68, サブカテゴリー数が20, カテゴリー数は3であった。以下, カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを〔 〕, コードを< >で表記する。

#### i. 【充足感の表出】

予防接種後の喜びや誇らしさといった充足感を示す表情や行為を表す行動であり, 4のサブカテゴリーで構成された。具体的には<明るい表情>, <ご褒美をもらい喜ぶ>等による〔喜び〕, <保護者からの称賛

に誇らしげな表情>, <胸を張って歩く>等による〔誇らしい態度〕, <絆創膏をはがしたがらない>等による〔絆創膏をはがすことの拒否〕, <アピールするために穿刺部位を見せる>による〔穿刺部位の誇示〕であった。

#### ii. 【予防接種からの切り替え】

終わったことを自覚し, ほかの行動に移る行動であり, 10のサブカテゴリーで構成された。具体的には

＜ご褒美シールで遊ぶ＞, ＜プレイエリアへ遊びに行く＞等による〔遊びへの転換〕, ＜いつもの状態に戻る＞, ＜静かに本を読む＞等による〔通常時に戻る〕, ＜終わったことに気づき泣き止む＞, ＜保護者とのスキンシップで泣き止む＞等による〔泣き止む〕, ＜ご褒美でほしいものを悩む＞, ＜抱っこを要求する＞等による〔ご褒美への関心〕, ＜ご褒美シールを選ぶ＞, ＜きょうだいと分配できるご褒美を選ぶ＞による〔ご褒美の選択〕, ＜ご褒美シールをはがす＞, ＜ご褒美の提示で帰り支度をし始める＞による〔帰宅に向けた準備〕, ＜泣いている他児に「大丈夫だよ」と励ます＞, ＜泣いている他児のところへ行く＞等による〔他者への気遣い〕, ＜入浴可能かどうかを確認する＞, ＜絆創膏の着脱に関する質問をする＞等による〔予防接種後の情報探索〕, ＜穿刺部周囲が硬結していることを報告する＞による〔穿刺部周囲の状況報告〕, ＜2回目の予防接種があることを伝えられ「わかった」と答える＞, ＜2回目の予防接種に向けて「その日もがんばる」と言う＞等による〔次回の予防接種に向けた意思表出〕であった。

### iii. 【予防接種の振り返り】

予防接種時の様子を思い出して他者へ表出する行動であり, 6のサブカテゴリーで構成された。具体的には＜「痛かったけど, 大丈夫だった」と言う＞, ＜痛くなかったことを報告する＞等による〔痛みに関する表出〕, ＜「がんばれなかった」と言う＞, ＜「泣いたからがんばれなかった」と言う＞等による〔がんばれなかったことの報告〕, ＜「がんばった」と言う＞, ＜がんばったことを同席しなかった保護者に報告する＞等による〔がんばったことの報告〕, ＜泣かなかったことを年下のきょうだいに報告する＞, ＜泣かなかったことを同席していない保護者に報告する＞等による〔泣かなかったことの報告〕, ＜泣いたことを同席しなかった保護者に報告する＞による〔泣いたことの報告〕, ＜予防接種の様子を同席しなかった保護者に報告する＞, ＜予防接種をしたことを幼稚園教諭に報告する＞等による〔予防接種を受けたことの報告〕であった。

## IV. 考 察

### 1. 見出されたカテゴリー

【充足感の表出】, 【予防接種からの切り替え】は, 先行研究において処置後にもみられる行動であった一

方で, 退室後の経過の中で特徴的な行動は, 【予防接種の振り返り】であった。採血・予防接種を対象とした先行研究<sup>9)</sup>では, 幼児は穿刺前までは不快な情動を表出することが多く, 穿刺後に【充足感の表出】に変化することで保護者や看護師は「がんばった」ととらえていた。本研究では, 幼児は予防接種が終わり処置室から出た後も【充足感の表出】を継続的にしており, その行動を保護者は「がんばった」としてとらえていたと考えられる。幼児が充足感を持ち続け, 「次の予防接種もできそう」という自己効力感を抱けるようにするためには, 幼児の【充足感の表出】を促進するための援助が必要である。また, 【予防接種からの切り替え】は, 予防接種という穿刺を伴う処置を自覚し, それを乗り越えられた, あるいは終わったという認識をもとにした行動である。保護者は幼児が＜遊びへの転換＞, ＜泣き止む＞, ＜ご褒美への関心＞, ＜次回の予防接種に向けた意思表出＞等の行動を示すと, 幼児の【予防接種からの切り替え】ができたと判断しており, 「がんばった」を示す表出行動であると考えられていることが考えられた。検査・処置後に病室で幼児の気持ちを切り替えるための介入に関する先行研究<sup>10)</sup>では, 切り替えを促進するためのシールを用いた介入が3～8歳の入院患児の機嫌が良くなったり笑顔になったりといったことの観察から効果的であったという報告があった。本研究においても＜ご褒美への関心＞が【予防接種からの切り替え】の行動の一つであった。ゆえに, 予防接種後の幼児の「がんばった」行動を促進するためにご褒美を設定し, それに関心を向けられるような援助が有効であると考えられる。そして, 先行研究では報告されていなかった本研究のユニークな結果である幼児が行う【予防接種の振り返り】は, 幼児のメタ認知の発達を促進させるという側面から重要である。3歳児でも簡単な振り返りはでき, 4歳児, 5歳児になるにつれて, 次への見通しを持つことができるようになり, 幼児を取り巻く大人は幼児の外言化を促すことが重要である<sup>11)</sup>。振り返るという行動はプレパレーションのステージ5において幼児ががんばったことを自己評価し, 大人がその気持ちを評価し, さらに支援するきっかけとなる。また, 次の予防接種に向けた方略を話し合うきっかけとなり得る。これらを行うことができれば幼児の「がんばった」という自覚をさらに強める, あるいは次の予防接種も「がんばろう」という思いを強化できると考えられる。

## 2. 実践への示唆, 研究の限界と今後の課題

実践への示唆として, 本研究の結果より, 幼児の自己効力感を高める援助に寄与する可能性がある。具体的には, ①称賛による充足感を促進する援助, ②「処置後の遊び」を通じて幼児の予防接種に関する気持ちや次の予防接種に向けた方略を外言化させる援助の2点である。これらの援助は自己効力感を高める4つの情報源(遂行行動の達成, 代理経験, 言語的説得, 情動的喚起)のうち, 言語的説得に相当する<sup>12)</sup>。遂行行動の達成(予防接種を終えられたこと)に加えて称賛されることで自己効力感が高まることが期待される。

また, 研究の限界として, 本研究は1つの地域を研究対象としており, 得られたデータが理論的飽和に達していない可能性がある。そのため, 今後は対象地域を広げてデータ収集を行う必要がある。また, 保護者が行う予防接種後のプレパレーションに効果があるのかを検証するために, その次の予防接種時の「がんばった」行動に変化があるのかどうかを比較対照実験により明らかにする必要がある。さらに, 予防接種後に「がんばった」を示す行動がみられた幼児が自己効力感を得られたかを検証する必要がある。

## V. 結 論

本研究は, 保護者が認識した予防接種後に幼児が示す「がんばった」行動を明らかにすることを目的に, 3~7歳児の保護者11人へインタビューを行った。その結果, 予防接種後の幼児の「がんばった」を示す行動は68コード, 20サブカテゴリー, 3カテゴリーが見出された。見出されたカテゴリーの中で【充足感の表出】、【予防接種からの切り替え】の行動は先行研究においても確認されている行動であったが, 【予防接種の振り返り】は新たに見出されたカテゴリーであった。これらの結果より, 医療者が保護者へ幼児の「がんばった」行動を情報提供することで, 保護者が幼児へ称賛すること, あるいは予防接種後の振り返りを促すことを可能にする。そして, 保護者による予防接種後のプレパレーションにより, 幼児の自己効力感を高める可能性が示唆された。

本研究は The 6<sup>th</sup> International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science にて発表を行った。また, 本研究は文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)(研究課題番号: 26861927)の補助を受け

て行った。

利益相反に関する開示事項はありません。

## 文 献

- 1) 遠藤晋作, 堀田法子, 山口大輔, 他. 医療処置を受ける幼児と看護師・医師・親の間で交わされるコミュニケーション. 小児保健研 2018; 77 (2): 134-141.
- 2) 堅田智香子, 西村真実子, 津田朗子. 痛みを伴う処置を繰り返し受ける子どもの反応と影響要因. 看護実践学会誌 2008; 20 (1): 34-42.
- 3) 武田淳子. 採血に対する幼児の反応・行動に影響を及ぼす要因. 千葉看会誌 1998; 4 (2): 8-14.
- 4) 園田あや, 木内妙子, 王 麗華. 子どもの予防接種に際して母親が行う説明に関する研究. 日小児看護会誌 2009; 18 (1): 9-15.
- 5) 保坂 渚, 安藤晴美. 予防接種を受ける幼児に対して親が行うプリパレーションの実態. 山梨大看会誌 2013; 11 (2): 31-36.
- 6) 北島 萌, 杉山沙織, 上田あけみ, 他. 当院保育士と連携した予防接種への関わり 紙芝居「ワクチンってなあに?」を使用して. 病児保育研究 2019; 10: 80-83.
- 7) 田中恭子. プレパレーションの5段階について. 小児保健研 2009; 68 (2): 173-176.
- 8) 小幡善美, 榎木野裕美. 看護師がとらえる検査・処置を受ける乳児後期の子どものがんばる姿. 日小児看護会誌 2013; 22 (3): 57-62.
- 9) Asari T. Expressive behaviors demonstrating “well done” in young children undergoing blood sampling or vaccination as perceived by parents and nurses in Japan. Compr Child Adolesc Nurs 2019; 42 (4): 280-292.
- 10) 藤田えり, 杉田なつ未, 大向玲美奈, 他. 検査・処置後の患児の気持ちを切り替えるきっかけづくり 検査・処置カードを使用したときの患児の反応. 名古屋市大看研録, 2010: 43-47.
- 11) 太田友子. 幼児期における「振り返り」活動—幼小接続期におけるメタ認知に関する一考察—. 大阪総合保育大学紀要 2017; 12: 179-196.
- 12) Bandura A. Self-efficacy: toward a unifying theory of behavioral change. Psychol Rev 1977; 84 (2): 191-215.

**[Summary]**

The purpose of this study was to elucidate the “ganbatta (I did my best)” behavior, as perceived by the parents, that young children demonstrated after vaccine injection. This would allow the medical staff to present to the parents the type of child behavior that could become cues and the optimal timing for giving praise after vaccine injection. The authors gave semi-structured interviews to 11 parents of children vaccinated in 3 to 7 year olds during a previous year. Data were collected, and qualitative inductive analyses were conducted to elucidate the “ganbatta” behavior shown by the children after vaccine injection and after going home.

The analyses found 68 codes, 20 subcategories, and 3 categories for “ganbatta” behavior demonstrated by children after vaccine injection. Specifically, these

were : “expressing satisfaction,” “switching gears from vaccine injection,” and “reflecting on vaccine injection.” “Reflecting on vaccine injection” was a newly-found category from this study. This was likely because previous studies commonly reported behavior related to the child before, during, and immediately after the vaccine injection and rarely focused on the child’s behavior in the waiting room after vaccine injection or after going home. The medical staff providing information to the parents on the child’s “ganbatta” behavior after vaccine injection would facilitate the child “reflecting on vaccine injection,” suggesting that it may enable parents to effectively make post-vaccine injection preparations.

---

**[Key words]**

“ganbatta”, vaccine injection, young children, parents, behaviors